



Title	日本トルストイ文献目録（三）
Author(s)	法橋, 和彦
Citation	大阪外国語大学学報. 1983, 63, p. 45-57
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80962
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

日本トルストイ文献目録 (三)

法 橋 和 彦

1918年 (大正7年)

トルストイ研究 3巻1号 1月

ゲセフ「天才の謙遜」, 加藤一夫「トルストイに対する自分の態度」, 吉田絃二郎「弱き人トルストイ」, トルストイの作品の印象(3) (江口渙『『バアテル・セルギウス』に就いて」, 谷崎精二『『結婚の幸福』に就いて」, 外川清一訳「皇帝と象」, 加藤朝鳥「悪の追放と杜翁の転機」, 永田衡吉「トルストイズムと親鸞聖人の信仰」, セルゲエンコ 山内封介訳「トルストイ雑話」, トルストイ講壇(1) (ノオルソン「杜翁の無抵抗主義」), 荒井克成訳「仕事と死と病気」, ドストイェフスキイ 山村暮鳥訳「トトレベン将軍に送れる哀訴の書—1856年3月24日, セミパラチンスクにて—」, イリヤ・トルストイ「戦の幻影」, 「悪魔」, 読者論壇 (外川清一「愛に対する私」, 渡辺昌知「愛と憎み」, 萩寺光二郎「トルストイの転機」) 編輯者より

加藤一夫 「民衆は何処にありや」 新潮 1月

「文壇新潮 トルストイと愛の実行 (石田三治——開拓者)」 新潮 1月

日高啓次郎 「『クロチェル・ソナタ』を読む」 いのち 1月

「アンナ・カレニナ絵物語」 婦人之友 1~12月

石田三治 「若き日のトルストイ」 開拓者 2月

石田三治 「『戦争と平和』の書かれた頃」 六合雑誌 2月

石田三治 「青年トルストイの夢」 大学評論 2月

「新刊紹介 昇曙夢『トルストイ十二講』新潮社」 文明批評 2月

トルストイ研究 3巻2号 2月

ゲセフ「靈魂の幸福」, 石田三治「トルストイズムの発生的考察」, 中村星湖「老婆と富豪とトルストイと」, 秋田雨雀「虐殺されたバハイの女詩人」, ドストエフスキイ「作家アポロン・ニコラキッチ・マイコフに送れる手紙—1856年1月18日, セミパラチンスクにて—」, アルマア・モオド 大戸喜一郎訳「『復活』は如何にして書かれたるか」, 渡平民訳「肉体的労働と精神的労働」, 川島見一「トルストイ断想」, 川上清吉「二人のトルストイアン」, トルストイ講壇(2) (ノオルソン 加藤朝鳥訳「杜翁の無抵抗主義 (承前)」) イリヤ・トルストイ 鏑田芳花訳「小さい看護婦」, 田面欽次訳「悪魔 (承前)」, 読者論壇

(新明正道「ある種のマンネリズム」, 吉田不二雄「自愛の奔流」) 編輯者より

「ニコラス二世に与へたるトルストイの手紙」 読売新聞 2月

「トルストイの一日一訓」 苦味 2月

昇 曙夢訳 「獵の話」 新国民 2月

「決闘」 秀才文壇 2月

「露西亜農民生活」 大学評論 3月

昇 曙夢訳 「杜翁書簡」 新小説 3月

「レオ・トルストイ」 西洋画報 3月

「高すぎる」 都会及び農村 3月

小松武治 「トルストイの人生観」 青年雄弁 3月

『『生ける屍』のマーシャ(さすらひの歌)』 3月

石田三治訳 「詩人フエットへ杜翁より」 六合雑誌 3月

トルストイ研究 3巻4号 4月

ゲセフ「学者とバリサイ人(『杜翁談話録』より)」, 野上豊一郎「自然と同化し得ざる悩み」, 石川喜三郎「誤解せられたるトルストイ——トルストイと露国の社会主義——」, ポオル・ブウルジェ 豊島與志雄訳「トルストイの誤謬」, 石田三治「蜚友サドのことども——トルストイの書簡の一つ——」, 金田常三郎『『アンナ・カレーニナ』原本の序文(ニコライ・ストラホフ)」, 昇曙夢訳「芸術其他に就いての考察——トルストイの日記の一節——」, 山内封介「トルストイと其の訪問客」, ブリュクナ「作品を通して見たる杜翁」, トルストイ講壇(3) (TK生「トルストイと墨子」), アルマ・モオド 大戸喜一郎訳『『復活』は如何にして書かれたる乎(承前)」, 田面欽次訳「長篇小説——悪魔(完結)」, ロマン・ロラン「悪魔について」, 読者論壇(渡辺昌知「トルストイの倫理に就いて」, 掛川喜遊「憤りに就いての考察」) 編輯者より

徳富蘆花 「春信(ヤースナヤ・ポリヤナの回顧)」 福永書店 4月

石田三治訳 『トルストイ書簡集』 新潮社 4月

「トルストイ 露語読本」 4月

「文壇新潮 革命とトルストイ(石川喜三郎——トルストイ研究)」, 新潮 5月

本間久雄 「近代名著評釈」 5月

加藤一夫訳 「少年の為めの物理の話」 新国民 5月

昇 曙夢訳 「トルストイ日記」 5月

岡上三咲 「ニコラス二世の夢」 新人 6月

加藤一夫訳 「少年の為めの動物の話」 新国民 6月

「トルストイと露西亜のスヒンクス」 (『丁酉倫理講演集』189号所収) 6月

「ロシア政府を難詰す」 Life 6月

小泉 鉄 「天才の手紙」 6月

百島 操 「人道主義」 6月

トルストイ研究 3巻6号 6月

ゲセフ「五つの問答（『トルストイ談話録』より）」、三井甲之「我觀トルストイ」、石田三治「ムジック姿とダンディ姿」、外山清一訳「子供達への話」、フョードル・ソログーブ 山内封介訳「トルストイの辿りたる一路」、前田晁「自由を求めた不斷の努力」、福士幸次郎「『戦争と平和』中の二人物より」、野村一意「トルストイの性慾觀」、石川喜三郎「ヤースナヤ・ポリャナ村莊に於ける杜翁の生活」、瀬沼格太郎「露西亜人の宗教生活に於ける年中行事」、石田三治訳「手紙三つ（『トルストイ書簡集』より）」、読者論壇（永島可昌「トルストイに対する自分」、佐藤寥雲「世のトルストイアンを譬む」、林枝葉「杜伯信仰に就て」） 編輯者より

『生ける屍』を評す 活動写真雑誌 7月

トルストイ研究 3巻7号 7月

ゲセフ「二つの聖書（『トルストイ談話録』より）」、岩野泡鳴「僕の見たトルストイ」、加藤朝鳥「実践者としての杜翁」、スピロ 生田春月訳「トルストイ訪問記」、田中純「トルストイズムの接点」、ヴォルインスキ 山内封介訳「アリョーシャとリーザー『カラマゾフ兄弟』の人々」、シュアレス 増田篤夫訳「トルストイの教会」、加藤一夫「衝きつめた人生—『生ける屍』の印象—」、モオリス・ベアリング 中村千代子訳「トルストイの人と芸術」、松井研一「ヘブライズムの研究」、セルゲエンコ 山内封介訳「トルストイ雑話」、茅野昌栖訳「教父フョオドル・クジミッチの遺言」、ロマン・ロラン「フョードル・クジミッチの遺書について」、編輯者より

島村抱月訳 「復活」（抱月全集第5巻所収） 天佑社 7月

「文壇新潮 トルストイと金儲け（前田晁—トルストイ研究）」 新潮 7月

トルストイ研究 3巻8号 8月

石田三治訳「手紙一つ（ソフィヤ夫人宛）」、石田三治「宗教的経験の解剖—杜翁の生活記録を研究資料として—」、中村星湖「桃水和尚の話」、前田晁「淋しい曠野の死から」、播磨権吉「トルストイの死の前後」、武者小路実篤「『新しき村の生活』の序文」、モオリス・ベアリング 中村千代子訳「トルストイの人と芸術（承前）」、オルギン 岡田忠一訳「露西亜農民氣質」、米川正夫「露国国民性に関する考察」、スピロ 生田春月訳「トルストイ訪問記」、加藤朝鳥「杜翁の所謂悪魔の誘惑」、涌島義博訳「子供の知恵」、渡平民訳「トルストイの童話から」、立石信一「『トルストイ研究』を読みはじめてから」、渡平民訳「豺と象」、編輯者より

「改革の三手段 トルストイの手紙」 新しき村 8月

加藤一夫訳 「蚕の話」 新国民 8月

雁来紅 「楽園の門」 福音 8月

石川喜三郎訳 『トルストイ日記』(1895～1899) 博文館 8月(9月か)

昇 曙夢 「露国近代文芸思想史」

加藤一夫訳 「少年の為めの植物の話」 新国民 9月

トルストイ研究 3巻10号 10月

昇曙夢訳「芸術とは(『日記』より)」、永島直昭訳「相愛せよ」、福士幸次郎「トルストイとその諸問題—トルストイの論文『吾等何をなすべき乎』の受容と非難—」, オルギン岡田忠一訳「露西亜の農夫と土地」, ブリュクナア 布施延雄訳「ドストエフスキイの人と芸術(承前)」, 江口渙「『闇の力』に就いての疑」, 西宮藤朝「日本に於けるトルストイ」, シュテファン・ツワイグ 秦豊吉訳「ダスタエフスキイの歌」, 浅野良吉「『羯磨』に就いての杜翁の書簡」, 石田三治「家出した人々」, 安右衛門「親鸞の個人主義」, 編輯者より

「分業」 新しき村 11月

森本覚丹 「『復活』を論じ併せて岩野泡鳴を撲滅す」 Life 11月

三浦関造 「第一步」(『教育文学十講』所収) 11月

御風・泰三 「『復活』」 近代出版社 11月

トルストイ研究 3巻11号 11月

昇曙夢訳「思案三つ(『日記』より)」, 昇曙夢「露西亜芸術観の発展—(其一) バリンスキイの芸術観—」, 永島直昭訳「近代の科学—凡ゆる論議に対して, 同一の論議が相当って居る—」, 福士幸次郎「トルストイと其の諸問題(承前)—トルストイの論文『吾等何を為すべき乎』の受容と非難—」, 生田清平「芸術家の生活について—トルストイの『芸術とは何ぞや』を読んで—」, 柴田勝衛「トルストイの第三子に会った記憶」, 加藤朝島「杜翁の現歐洲戦乱」, 小野政方「寓話より見たるトルストイ」, 江渡狄嶺「『家出した人々』を読み」, 松井研一「トルストイのパウロとの契合点」, 外川清一「トルストイの力」, 編輯者より

トルストイ研究 3巻12号 12月

クロボトキン「良心の重荷」, 石田三治「現代経済生活と杜翁主義—人身売買の新解釈—」, 堀江朔「L'ESPRIT と率直とに就いて」, 堀本克三「トルストイの芸術論に就いて」, 涌島義博訳「トルストイの日記より(1896年)」, 森下岩太郎「チエホフの言葉」, ロペル・ヴオシエ 福士幸次郎訳「革命とトルストイの影」, 宮島新三郎「驢馬の悲劇」, 野村一意「恐死病者」, 昇曙夢「露西亜芸術観の発展—(其二) チェルヌイセーフスキイの芸術観—」, 松井研一「トルストイとパウロとの契合点(承前)」, 藤久真吾「人類のコーラス」, 河野通頼「農民の言葉」, 編輯者より

島村抱月訳 「戦争と平和」(世界大著物語叢書) 新潮社

昇 曙夢 米川正夫訳

『戦争と平和』 新潮社

エドワード・ガーネット エル・ウィンスタンレー 鍵田芳花訳

『トルストイの生涯と芸術』 大阪トルストイ研究会

1919年（大正8年）

- 片上 伸 「トルストイ教徒事件」 1月
 『『トルストイ研究』終刊について』 トルストイ研究 1月
- 涌島義博 「狂人の覚書」 露西亜評論 1月
 「文豪二十家の肖像」 文章倶楽部 1月
- 森本覚丹 「偉大なる凡人の死」 Life 1月
- 室生犀星 「トルストイに描かれた女性」 新潮 2月
- 内山賢治訳 「イリア」 労働文学 3月
- 石田三治 「現代思想中のトルストイズム」 六合雑誌 3月
- 片上 伸 「トルストイと革命」 露西亜評論 3月
- 石田三治 「トルストイ一代記」 我等 3月～5月
 「百姓の唄（トルストイ）」 労働文学 4月
- 中村吉蔵 「芸術座の記録」 早稲田文学 4月
- 長澤英郎 「トルストイの誤謬と今の露国」 帝国文学 4月
- 小林澄兄 「トルストイを憶ふ」（『三田文選』所収） 玄文社 5月
 「解放の父トルストイ」 デモクラシー 5月
 「マルクスよりトルストイへ」 文化運動 5月
- 片上 伸 「トルストイ記念の夜」（『露西亜の現実』所収） 5月
 「三度の笑ひ（上・下）」 福音新報 5月6月
 「マルクスかトルストイか」 文化運動 6月
- 昇 曙夢 「トルストイとチエホフ」 露西亜評論 6月
- 加藤一夫 「民衆芸術論」 6月
- 百島 操 「自己完成」 東方より 6月
- 岩野泡鳴 「トルストイ非議」 日本主義 6月
 「不幸な人々（『日記より』）」 労働文学 6月
- 山野虎市訳 「労働と死と病氣」 労働文学 6月
- 井筈節三 「マルクスとトルストイ」 中央公論増刊労働問題号 7号
- 百島 操訳 「悪魔とパンと酒」 新国民 8月
- 昇 曙夢 「トルストイ物語」 8月

- 百島 操 「神の子の自覚」 東方より 9月
内田魯庵 「トルストイの思想の移入及び伝播」(トルストイ全集13巻付録) 春秋社内トルストイ全集刊行会 10月
百島 操 「生命の根源」 東方より11月
西宮藤朝 「近代十八文豪と其生活」 11月
井篁節三 「銀座街頭のトルストイ」 中央公論 12月
衛藤利夫訳 『長き追放』(世界短篇傑作叢書) 新潮社

トルストイ全集 全13巻 春秋社 1919年~1920年

- ①「幼年の頃」「少年の頃」「青年」「カザック」他2篇 柳田泉・宮島新三郎・宇佐美文蔵・加藤一夫・原田実訳 ②「セフストーポリ」「ゲーム取人の手記」「ルセルン」「三つの死」「家庭の幸福」他5編 福永挽歌・加藤一夫・高野晃一郎・木村毅・高野槌蔵訳 ③「イワンの馬鹿」「最初の醸造者」「光ある中に光の中を歩め」他24編 飯田敏雄・村山勇三・馬場哲哉・宮原晃一郎・柳田泉訳 ④「クレイツェル・ソナタ」「イワン・イリイチの死」「ホルストメル」他22編 宮原晃一郎・浜田広介・加藤一夫・宇野喜代之介・高野弧龍・原田実・宇佐美文蔵・福永挽歌・宮島新三郎訳 ⑤「我が宗教」「私の懺悔」「我等何を為すべき乎」他5編 宇佐美文蔵・加藤一夫・細田源吉訳 ⑥「人生論」「シェクスピア及び戯曲について」「芸術とは何ぞや」他5編 西川松子・宮島新三郎・西川文子・木村毅・高谷道男訳 ⑦「復活」「教義神学の批評」高野槌蔵・古館清太郎他訳 ⑧「何を為すべきか」「黙する能はず」他41編 宮原晃一郎・宇佐美文蔵・石田三治・木村毅訳 ⑨⑩「戦争と平和」 米川正夫訳 ⑪「アンナ・カレーニナ」 中村白葉訳 ⑫「生ける屍」「神父セルギイ」「ハヂ・ムラート」他20編 井上芳子・高野槌蔵・宇野喜代之介・細田源吉・宮原晃一郎・福永挽歌訳 ⑬「日記」 宇佐美文蔵訳、「書翰」 宮原晃一郎・馬場哲哉訳、「神の国は爾等の衷にあり」 加藤一夫・宇佐美文蔵訳

石田三治 『全トルストイ』 大鑑閣 12月

1920年(大正9年)

- 片上 伸 「トルストイの英文書簡」 英語青年 1月
片上 伸 「トルストイの家庭論」 1月
島田民蔵訳 「子供の国」 婦人公論 1月3月
片上 伸 「ロシア抄」 早稲田文学 2月
「東方時論 杜翁の末女拘禁さる、革命家はトルストイの使徒」 新時代 3月
片上 伸 「トルストイと自然生活者」 新時代 4号
クロスバイ 西山哲治訳
『教育者としてのトルストイと教育改造論』 天佑社 4月
上山紀夫 「トルストイ 石田三治著」(書評) 著作評論創刊号 4月

- 片上 伸 「トルストイと死の予感」 新時代 5月
 内田魯庵訳 『復活（前後）』（改訂版） 金尾文淵堂 5月
 「二人の少女」少女画報 5月
- 片上 伸 「トルストイの文学に関する感想」 新時代 6月
 井篁節三 「トルストイの剰余価値論」 中央公論 6月
 長田秋生 「トルストイの復活」 ラブ・シーン 6月
 「先人遺言」（トルストイ） 著作評論第1巻第3号 6月
- 小泉 鉄訳 「トルストイに選ばれたる言葉（1・2）」 白樺11巻6・9号 6月9日
 ギルド 「現代の奴隷制度」（『社会主義の立場』所収） 7月
 曙夢 「現代ロシアとトルストイ教徒」 大阪毎日新聞 7月
 富士辰馬訳 「乳徳利のアリヨシャ」 週刊朝日夏期特別号 7月
 井篁節三 「私有財産制度」 8月
 島村民蔵 「トルストイの禁欲主義」（『性的理想主義』所収） 8月
 クロボトキン 馬場・森下・佐藤共訳
 『露西亜文学講話』 アルス
- 帆足理一郎 「トルストイの芸術論」（『聖き愛の世界へ』所収） 9月
 内山賢治訳 「トルストイ青年時代の日記」 洛陽堂 10月
 田山花袋 「その頃のこと」 読売新聞 10月7日
 加藤一夫 「日本の思想界に及ぼせるトルストイの影響」 読売新聞 10月24日
 原 白光 「『アンナ・カレニナ』を訳して」 読売新聞 10月30日
 「けふ一露国民衆の父杜翁十周年の命日」 大阪朝日新聞 11月31日
- 帆足理一郎 「我がトルストイ観」 新公論 12月
 原 白光訳 『アンナ・カレニナ（1～3）』 新潮社 1920年～1921年
 『トルストイ画譜』（片上伸解説） 春秋社内杜翁全集刊行会
 1921年（大正10年）
- 芥川龍之介 「山鳴」 中央公論 1月
 米川正夫 「トルストイと性の問題」 新小説 1月
 原 白光訳 「アンナ・カレニナ」 文章倶楽部 3月
 高倉 輝 「イワンの馬鹿」 大阪時事新報 4月
 片上 伸 「童話劇について」 読売新聞 4月
 木村莊五訳 「悔いたる罪人」 新しき村 5月
 「トルストイと革命家との対話」 世界思潮研究会 5月
- 吉野作造 「トルストイのこと」 文化生活 6月
 ゴルキー 「トルストイの追憶(1)」 白樺12巻6号 6月

- 岡田哲蔵 「シベリヤで得た画」 女性日本人 6月
- 小野俊一 「有楽座に杜翁の『闇の力』を見る」 読売新聞 6月28日
「問題の『闇の力』」 万朝報 6月
- マキシム・グリキー 田中 純訳
「トルストイの思ひ出(書簡)」人間3巻5号~7号 6月~8月
- 内山賢治訳 『ゴルキーの見たトルストイ』 下出書店 7月
「芸術家評伝トルストイ」 小国民新聞 7月
- 宮島新三郎 「トルストイとゴルキ(上中下)」 時事新報 7月2・3・5日
- 片上 伸 「『闇の力』の考察」 新演芸 8月
- ゴルキー 「トルストイの回想(2)」 白樺12巻8号 8月
- 島崎藤村 「トルストイの『モーパッサン論』を読む」 早稲田文学 9月~11月
「芸術の勝利 トルストイの晩年とその悲劇的意義 ロシヤ研究」 日本評論社
10月
- ロマン・ロラン 宮島新三郎訳
『トルストイの生涯』(杜翁記念文庫12) 春秋社 10月
- 市島謙吉 「トルストイの裏面」 蟹の泡 12月
- トルストイ短篇選集 洛陽堂
「愛ある所に神あり」,「悔悟せる罪人」,「旅人との対話」,「憎みは甘い,然し神は強い」,
「日記より」,「三つの死」,「村の唱歌隊」,「村の三日間」,「イワンの馬鹿」,「三人の隠
者」,「草莓」,「侵入」,「コルネイ・ワシリエフ」,「何故に」,「殺人者の悔恨」
- 中島 清訳 『復活』 新潮社
トルストイ文庫 全2冊 昇曙夢・衛藤利夫・福士幸次郎・久保正夫・涌島義博訳 新潮社
1921年~1923年
①「神は真実を見給ふ,されど待ち給ふ」,「小鬼とパン切れ」,「二老人」,「鶏の卵のやう
に大きな穀粒」,「人はどれだけの土地を要するか」,「人は何によって生きるか」,「蠟燭」,
②「イリヤス」,「イワンの馬鹿の話」,「から太鼓」,「少年の智慧」,「火を等閑にせば燃上
らん」,「三つの問題」,「欲望の念は必要以上に強し」
- 1922年(大正11年)
- 昇 曙夢 「露国文豪カリカチュア」 世界思潮研究会 1月
- 片上 伸 「トルストイの宗教的人生観」 新小説 3月
- 三浦閔造訳 『トルストイ童話集』 真珠書房 3月
- 藤森淳三 「杜翁の家出と有島武郎氏の財産抛棄」 国民新聞 4月
- 村田豊秋 「トルストイの哲学」(『晩近哲学大集成』所収) 6月
- 片上 伸 「トルストイの家庭論」 婦人公論 6月

- 木村 毅 「ルッソーからトルストイまで」 6月
- 赤木桁平 「アンナ・カレニナの悲劇」 女性 7月
- 細田源吉訳 『私の懺悔』 春秋社 7月
- 小川龍彦訳 『愛と智慧との言葉』 洛陽堂 7月
- 木村 毅訳 「芸術とは何ぞや」 春秋社 7月
- 片上 伸 「最近ロシヤ文学の意義」 8月
- 島崎藤村 「飯倉だより トルストイのモウパッサン論を読む」 アルス 9月
- 『家庭の幸福』 春秋社 10月
- 播磨樗吉 「トルストイ終焉地」 白樺13巻10号 10月
- 外山完二訳 「杜翁の日記」 生長する星の群 10月11月
- 内田魯庵 「兵役拒絶の宗教」(『バクダン』所収) 春秋社 11月
- 「トルストイの肖像 12年前の今日、トルストイ死す」 大阪毎日新聞 12月12日
- 帆足理一郎 『トルストイとガンディーの宗教思想』 警醒社 12月
- 福永挽歌訳 『短篇三種』(「アリバルト」「ゲーム取人の手記」「ルセルン」) 春秋社
- 内田静衛訳 「人生を超越する力」 中央出版社
- 米川正夫訳 「悲恋の曲—クロイツェル・ソナター」(名訳名著叢書二) 金星堂
- 『民話』 春秋社
- 1923年(大正12年)
- 古館清太郎訳 『復活』 春秋社 1月
- ゲセフ 外山完二訳
- 「トルストイの言葉」 生長する星の群 1月～3月
- 有島武郎 「愛の円味持ったナターシャ(文芸作品中に現われた私の最も好きな女性)」
- 女性改造 2月
- 「ドストエフスキーとトルストイ」(『父ドストエフスキーの回想』所収) 3月
- 松原至大 「トルストイと親鸞との対話」 新潮 4月
- 『戦争と平和』の中の二人の女性 女性 6月
- 「トルストイの無抵抗主義」(安島健編『最近近代主義三十講』所収) 日本評論社 6月
- 米川正夫(Ⅰ・Ⅱ)昇 曙夢(Ⅲ・Ⅳ)訳
- 「戦争と平和」(世界文芸全集第13篇～第16篇) 新潮社 6月～8月
- 加藤一夫訳 「子供の智慧」 春秋社 8月
- 加藤一夫訳 「カサック」 春秋社 8月
- 綿貫六助 「『戦争と平和』の感想」 新潮 8月

- 「トルストイの労働論」 同人協会 9月
- 片上 伸 『トルストイ伝その他』 春秋社 10月
- 加藤一夫 「トルストイの恋愛観」(『哲人文豪と恋愛観』所収) 11月
- 萩村夢人訳 「クロイツェル・ソナタ」 婦人評論 11月12月
- 『トルストイ・ツルゲネフ・ストリンドベルヒ選集』 12月
- 米川正夫訳 「闇の力」(近代劇大系13巻所収) 近代劇刊行会
- 1924年(大正13年)
- 「トルストイと音楽」 1月
- 浅原文郎 「『戦争と平和』から生れて来た僕の感想」 ロシヤ文学 3月
- 鍵田研一 「トルストイの芸術観」 黎明(敦賀キリスト教会) 3・6・8月
- 「私の愛するロシヤの作家及び作品」 4月
- ゴルキー 小松原雋訳
- 『チエホフとトルストイの回想』 聚英閣 4月
- 田制佐重訳 『トルストイ童話集』(新訳世界教育名著叢書全12巻中の第4巻) 文教書院 6月
- 米川正夫訳 「結婚の幸福」 婦人之友 5月~7月
- 三島 隆訳 「壺のアリョーシャ」 ロシヤ文学 7月
- 「トルストイの禁酒論」 同人協会 7月
- 「トルストイの労働論」 同人協会 7月
- 『トルストイ(世界三百人文豪)』 春陽堂 7月
- 百島 操訳 「人は何故に自己を麻痺せしむる乎」 禁酒評論 8月~10月
- ラファエル・フォン・ケーベル
久保 勉訳 「芸術の真理に関するトルストイの説」(『ケーベル博士続々小品集』所収) 岩波書店 9月
- 『イワンの馬鹿(露西亜お伽)』 甲子出版社 9月
- 西牧保雄 「トルストイの恋愛」 世界文学 金星堂 9月
- 田尾 一訳 『トルストイ物語四つの話』 イデヤ書店 10月
- メレジュユーフスキー
昇 曙夢訳 『トルストイとドストエフスキー——その生活と芸術』 東京堂 10月
- 米川正夫訳 『トルストイ戯曲全集』(「生ける屍」「一切のもと」「酒のはじまり」「光りは闇の中に輝く」「文明の果実」「闇の力」) 岩波書店 10月
- 御木本隆三 『ラスキン研究』 厚生閣書店 11月
- 前田 晃編 「復活」 11月
- アルツイバーシエフ
馬場哲哉訳 「トルストイ論」(『作者の感想』所収) 随筆社 11月

- 木村 毅 「芸術批評の一標準」(『文芸の先駆』所収) 12月
「愛ある所に神あり」 黎明(敦賀キリスト教会文芸部) 12月
『平和論集』 春秋社

トルストイ全集 全14巻(増訂改版)

春秋社内トルストイ全集刊行会 1924年11月～1925年12月 (全巻解題片上伸)

- ①「初期の作品」(「幼年」他4編) 柳田泉・宮島新三郎・高野槌蔵・加藤一夫訳 ②
「短篇及び中編小説」(「侵入」他15編) 原田実・福永挽歌・柳田泉・宇佐美文蔵・加藤
一夫・宮島新三郎・村山勇三・浜田広介訳 ③「短篇及び中編小説(続)」(「クロイツェ
ル・ソナタ」他33編) 福永挽歌・柳田泉・村山勇三・松原至大・加藤一夫・細田源吉・
武野藤介・梅田寛訳 ④「戦争と平和(上)」 春秋社訳編 ⑤「戦争と平和(下)」 春
秋社訳編 ⑥「アンナ・カレーニナ(上)」 春秋社訳編 ⑦「アンナ・カレーニナ
(下)」 春秋社訳編, 「性慾論」 柳田泉訳, 付録「トルストイに関する二つの年表」
百島操編, ⑧「復活」 古館清太郎訳, 付録「トルストイ小伝」 片上伸, 「トルスト
イの思想の移入及び伝播」 魯庵生, ⑨「宗教小説・民話・戯曲」(「闇の力」他15編)
宇野喜代之介・木村毅・飯田敏雄・加藤一夫・村山勇三訳, ⑩「人生問題及び芸術論集」
(「我等何を為すべきか」他12編, 序跋7編) 加藤一夫・宮島新三郎・木村毅・梅田寛
訳, ⑪「芸術論集」(「我が宗教」他6編) 加藤一夫・村山勇三・宇佐美文蔵訳, ⑫「聖
書研究及び教育論集」(「私の懺悔」他16編) 細田源吉・高野槌蔵・高谷道男・西川松子
・柳田泉・加藤一夫・三宅賢訳, ⑬「社会・政治論集」(「世の終り」他25編, 「童話」19
編) 柳田泉・村山勇三・飯田敏雄・松原至大・木村毅・宮原晃一郎訳, ⑭「書簡・日記
・公開状・雑纂」(「トルストイの恋文」他40編) 内山賢治・村山勇三・宇佐美文蔵・柳
田泉・高野孤龍・石田三治訳, 付録「訓育と教育」「ヤースナヤ・ポリャーナ学校」 馬
場辰弥訳

1925年(大正14年)

- 島崎藤村 「プウシキンこそ吾々の教師である」(『春を待ちつつ』所収) アルス社 3月
島崎藤村 「トルストイの晩年」 新小説 4月
米田 曠 「新カチューシャ節」 文芸戦線第2巻第4号 8月
土谷昌介訳 『トルストイ選集』 中央出版社
阿部次郎訳 『光あるうちに光の中に歩め』 新潮社

トルストイ著作選集 全3巻 新詩壇社

- ①「わが無抵抗主義」(「イワンの馬鹿」「神の律法と人の律法」「第一歩」「福音書は如何
によむべき乎」「福音書了解の鍵」「無抵抗主義と現代社会」「無抵抗の教理」「四つの書
翰」「わが無抵抗主義」) 木村毅訳, ②(不明) ③「両性論」(『クロイツェル・ソナ
タ』の後語)「書簡・日記・その他から」「1900～1908年の間に書かれた日記・及び抜粋の

補遺」「ダイアナ」「トルストイの両性観」)

1926年（大正15年）

チェルトコフ 寿岳文章訳

『晩年のトルストイ』 岩波書店 2月

『トルストイ全集初めて刊行さる』 学燈 4月

神近市子訳 「ノートから——トルストイと女」 文芸市場2巻6号 6月

正宗白鳥 「文芸時評——トルストイについて他」 中央公論7月

石浜知行 「一つのトルストイ論」 文芸春秋 9月

米川正夫 除村吉太郎

『レフ・トルストイ』 東方出版株式会社 9月

トルストイ夫人 ドストエフスキー夫人 井田孝平訳

『良人の追憶』 春秋社

トルストイ全集 全61分冊（普及版）

春秋社1926年～1928年

（「トルストイ全集」全14巻（春秋社・1924年～1925年）と内容はほぼ同じ）

1927年（昭和2年）

トーマス・マン 生田春月訳

「トルストイと農民 ゲーテとトルストイ」 大調和 2月

「珊瑚集（名句集） トルストイ他」 文芸公論1巻3号

石浜金作 「ドフトエフスキイとトルストイ——『芸術の機能』に関するルクセンブルグの意見」 手帖5号 7月

山内房吉 「ブック・レビュー トルストイとマルクス」 文芸戦線4巻10号 10月

岡田八千代脚色 『イワンの馬鹿』（芽生座公演台本） 劇と評論 11月

ビリュコフ 原久一郎訳

『大トルストイ伝（1～3）』 新潮社 1927年～1928年

水谷まさる訳 『新訳トルストイ童話集』 富山房

土谷昌介訳 『トルストイ傑作全集』 全1巻（「アンナ・カレニナ」「復活」「生ける屍」「人生論」「わが懺悔」「宗教とは何ぞや」） 成光館出版部

1928年（昭和3年）

W・I・アレクセイエフ 外山樞夫訳

「トルストイの追憶」 大調和 1月

片上 伸 「トルストイ記念の一夜」「トルストイ伝」「トルストイと革命」「トルストイ教徒事件」「トルストイと死の予感」「トルストイと自然生活者」「トルストイの宗教的人生観」「トルストイの家庭論」「トルストイとその夫人」「トルストイ著作

解題」(『露西亜文学研究』所収) 第一書房 4月

森本覚丹 「音楽雑纂(1) トルストイとチャイコフスキー」 不同調6巻6号 6月

武者小路実篤 「レフ・トルストイ伝(1~3)」 大調和 7・8・10月

レーニン 山本勘介訳

「トルストイ論」 文芸戦線5巻8号

武者小路実篤 「『我が懺悔』を中心として見たトルストイ」 改造 8月

大調和(トルストイ生誕百年記念号) 9月

「巻頭言(トルストイ簡易聖書9 誘惑)」,武者小路実篤「トルストイ雑感」,犬養健「描写家トルストイ」,千家元麿「トルストイ小感」,佐藤惣之助「トルストイに関して」,加藤一夫「トルストイ主義に対する再考察の覚書」,瀧本貞次郎「トルストイと『死』についての断片」,小国英雄「『我が懺悔』ノート」,村田春海「猛禽トルストイ」,KS生「日本の杜翁劇」,永見七郎「トルストイの一面」,木村莊五「トルストイの戯曲論」,「二つ——猿と豆 鴨と月」,原久一郎訳「教育家としてのトルストイの略図」,尾瀬敬止訳「革命後に於けるトルストイの文献」,三木治訳「トルストイの私記」,「盲人と牛乳」,トーマス・マン 生田春月訳「ゲーテとトルストイ」,関口存男訳「虚無主義者——喜劇三場(戯曲)」,田村玄佐雄訳「壺のアリョーシャ」,佐々木隆彦訳「リュツェルン」,原久一郎訳「最初の思ひ出——自伝的記録より——」,武者小路実篤「三段雑記」

K・O訳 「トルストイ博物館」,佐々木隆彦訳「リュツェルン(承前)」,原久一郎訳「幼年時代の思ひ出」 大調和 10月

外村史郎 「トルストイの社会的地位——トルストイ誕生百年記念——」,国際文化1年1号 11月

「資料 トルストイに関するテーゼ ソヴェート芸術局」 国際文化1年1号 11月

「国際グラフ(トルストイ百年記念祭他)」 国際文化1年2号 12月

国際文化研究会編訳『マルクス主義者の見たトルストイ』 叢文閣

(レーニン「ロシア革命の鏡としてトルストイ」,ルナチャールスキー「トルストイの死と若きヨーロッパ」,ヤロスラフスキー「トルストイとボリシェヴィキー」,ゴーレフ「トルストイ思想の社会的屈折」,フリーチェ「芸術家の悲劇」,ルナチャールスキー「トルストイ記念祭とその意義」,コーガン「エル・エヌ・トルストイ」,マイスキー「レフ・トルストイ」,ソヴェート中央芸術局「トルストイに関するテーゼ」)